

ブドウのビニール被覆栽培に関する研究

第3報 葉面散布肥料の切枝に対する処理時期

清水博之・森田 彰・浜地文雄・*恒遠正彦・**林田正道
 (福岡県園芸試験場・*福岡県農業技術課・**福岡農業改良普及所)

施設栽培のブドウのほう芽，展葉促進均一化を図る目的で，葉面散布肥料（メリット生長用）と石灰窒素浸出液の処理時期とほう芽，展葉の関係を検討した。

1. 試験方法

1) 供試枝 無加温ビニールハウスの巨峰11年生短ししょうせん定樹の結果母枝の基部から5節目を処理当日採取し，芽の上1cm，芽の下6cmに切って，枝全体に供試剤を毛筆で塗布し，風乾後，水挿しし直ちに加温ビニールハウス内に入れた。

2) 供試薬剤 メリット生長用（青）2倍液 メリット生長用の内容成分は窒素全量7.0%（内アンモニア性窒素4.0%，硝酸性窒素3.0%），水溶性リン酸5.0%，水溶性加里3.0%，水溶性マンガン0.10%，水溶性ほう素0.20%。

石灰窒素（粉末）5倍浸出液。

3) 処理時期 12月中旬（15日），12月下旬（26日），1月上旬（6日），1月中旬（17日），1月下旬（26日）。

4) 温度管理 最高25℃，最低15℃にセットした加温

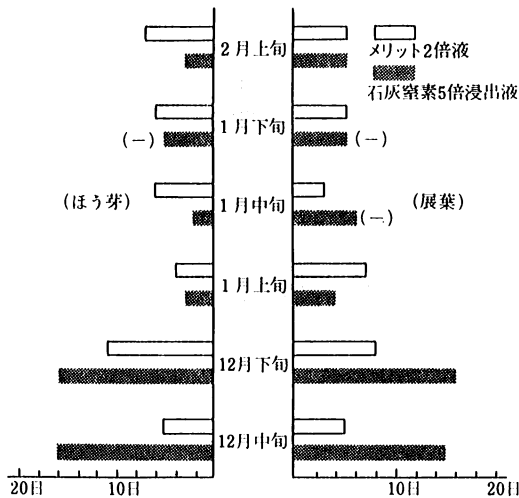
ビニールハウス。

2. 試験結果

1) 石灰窒素5倍浸出液の12月中，下旬の処理は，ほう芽，展葉の促進効果が高く，無処理区よりも16日，メリット2倍液区に比較してもかなり高い促進効果が認められた。

2) 石灰窒素5倍浸出液の1月上旬以後の処理では，メリット2倍液区よりもほう芽，展葉が遅れた。とくに1月中旬，下旬の処理では無処理区よりもほう芽，展葉が遅れるとともに，ほう芽，展葉しなかった枝が10%程度あった。

3) メリット2倍液処理区はどの時期でも，無処理区に比較して，ほう芽で4～11日，展葉で3～8日促進効果が認められたが，12月までの処理では，石灰窒素5倍浸出液処理よりもほう芽，展葉とも遅れた。しかし，1月以後の処理になるとメリットの方が石灰窒素よりも安定した効果を示した。



第1図 無処理に対する石灰窒素液およびメリットのほう芽，展葉促進日数

第1表 ほう芽，展葉の所要日数

区 別	項 目	70% 到 達 日			
		ほ う 芽		展 葉	
		月, 日	所要日数	月, 日	所要日数
12 月 中 旬	石 灰 窒 素	1. 6	22	1. 13	29
	メ リ ッ ト	1. 17	33	1. 23	39
	無 処 理	1. 22	38	1. 28	44
12 月 下 旬	石 灰 窒 素	1. 20	25	1. 28	33
	メ リ ッ ト	1. 25	30	2. 5	41
	無 処 理	2. 5	41	2. 13	49
1 月 上 旬	石 灰 窒 素	2. 4	29	2. 13	38
	メ リ ッ ト	2. 3	28	2. 10	35
	無 処 理	2. 7	32	2. 17	42
1 月 中 旬	石 灰 窒 素	2. 18	32	3. 2	44
	メ リ ッ ト	2. 14	28	2. 21	35
	無 処 理	2. 20	34	2. 24	38
1 月 下 旬	石 灰 窒 素	3. 1	34	3. 7	40
	メ リ ッ ト	2. 18	23	2. 25	30
	無 処 理	2. 24	29	3. 2	35
2 月 上 旬	石 灰 窒 素	2. 28	22	3. 4	26
	メ リ ッ ト	2. 24	18	3. 4	26
	無 処 理	3. 3	25	3. 9	31